

## 年 間 授 業 計 画

科目名	財務会計Ⅰ	単位数	3単位	学年・学科	2学年流国情学科	展開	必修・ <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">選択</span>	
教科書名	財務会計Ⅰ（234TAC 商業731）		副教材名	最新段階式簿記検定問題集全商1級会計改訂版(実教出版) 全商簿記実務検定模擬試験問題集1級会計(実教出版)				
科目の目標	・企業における取引の記録、計算、整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともにビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を身につけ、スペシャリストの基礎をつくります。							
学習内容と進め方	・財務会計に関する知識と技術を習得させ、会計責任を果たすことの重要性について理解させる。 ・会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。							
学習の留意点	(1)新しい会計基準や財務会計の基本概念について、自ら思考を深め、高度な知識と技術を活用して適切に判断する能力を身につけ、会計情報の提供および活用という形を学ぶことで理解が深まります。 (2)会計基準の国際的統合の状況、特にIASB(国際会計基準審議会)が逐次公表するIFRS(国際財務報告基準)の動向などを、わかりやすくまとめることで、より高度な学習に進むことができます。 (3)企業結合会計、特に吸収合併における会計処理を理解し、投資差額の償却、当期純利益の計上、配当金の修正などの理解を図ることができます。							
月	単元	予定時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考(評価項目)	
				1	2	3		
4	オリエンテーション 第1編 財務会計の基礎 第1章 企業会計と会計基準 第2章 企業会計制度	1 3 2	財務会計と管理会計 情報提供機能と利害調整機能 会計基準	○			1 企業会計の意義や役割について、株式会社制度の特徴と併せて理解します。 2 財務会計と管理会計の役割の違い、財務会計の利害調整機能と情報提供機能、会計担当者の役割と責任、会計基準の概要、会計などに関する情報開示(ディスクロージャー)の重要性などについて理解します。	
5	第2編 貸借対照表 第3章 貸借対照表の概要 第4章 資産の分類と評価 第5章 負債の分類 第6章 現金預金 第7章 金銭債権	3 5 2 3	貸借対照表の役割・貸借対照表の表示区分・形式 資産の分類・評価・資産の評価基準 負債の分類 現金預金銀行勘定との不一致の調整BSへの表示 売上債権・営業外債権		○		2 財務諸表の構成要素である資産・負債・純資産・収益・費用の概念について理解します。 3 財務諸表の構成要素である資産・負債・純資産・収益・費用の概念について理解します。	
6	第8章 電子記録債権・債務 第9章 棚卸資産 第10章 有価証券 第11章 有形固定資産	2 3 3 3	電子的に記録される債権・債務 棚卸資産の取得原価、費用配分の原則、商品評価損 棚卸減耗損 有価証券の分類 有形固定資産取得原価減却、原価償却、期末評価		○		2 現金・預金の意味と銀行勘定調整表の作成方法について理解します。 3 会計法規の種類と目的、会計基準の意義と動向について理解します。 2 棚卸資産の意味、単価と数量の計算方法、会計処理および期末評価について理解します。	
7	第12章 リース取引	5	リース会計の意味ファイナンス・リース取引の会計処理		○		1 有形固定資産の意味と種類、資本的支出と収益的支出、減価償却費の計算方法、固定資産の売却・除却・減失に関する会計処理について理解します。 3 リース取引の概要、(所有権移転外)ファイナンス・リース取引の意味と借手側の会計処理、オペレーティング・リース取引の意味と借手側の会計処理について理解します。	
8	第13章 無形固定資産 第14章 研究開発費とソフトウェア 第15章 引当金	3 1 2	無形固定資産、法的資産処理、のれん処理、期末評価 研究開発費の会計処理、自社利用のソフトウェア 引当金の分類、役員賞与引当金・退職給付引当金		○		2 無形固定資産の意味と種類、法律上の権利・のれん・自社利用目的のソフトウェアの会計処理および期末評価について理解します。 2 負債の意味とその分類、手形の二次的責任、偶発債務、負債性引当金、退職給付の会計処理について理解します。	
9	第16章～第18章 純資産 第19章 貸借対照表の作成	5 5	設立・増資・株主資本の計数変動、株主配分 誘導法・棚卸法・配列方法・作成原則・注記		○		3 報告式の貸借対照表の表示区分と作成方法などについて理解し、資料をもとに報告式の貸借対照表を作成する学習活動に取り組みます。	
10	第3編 損益計算書 第20章 損益計算書の概要 第21章 損益計算書の基準 第22章 役務の契約と工事契約 第23章 掛け代金の割引 第24章 外貨建て取引 第25章 法人税と税効果会計 第26章 損益計算書の作成 第27章 その他の財務諸表	7 5 1 5 2 1 2	損益計算書の役割 損益計算書の形式、表示区分 期間損益計算、費用収益対応の原則、認識・測定基準 役務の提供、工事契約 売上割引、仕入割引 輸入時・輸出時・決算時の処理、為替予約、PL表示 法人税・住民税及び事業税 損益計算書の作成・注記 株主資本変動計算書、注記表について		○		3 報告式の損益計算書の表示区分と作成方法などについて理解し、資料をもとに報告式の損益計算書を作成する学習活動に取り組みます。	
11	第4編 財務諸表の活用 第28章 ディスクロージャー制度 第29章 財務諸表分析 第30章 連結財務諸表	7 5 10 7	ディスクロージャー制度の趣旨 財務諸表分析 連結財務諸表、支配取得日連結、子会社資産・負債時価、投資資本の相殺消去、支配獲得後連結		○		1 企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解します。 3 財務諸表分析の意味・方法する学習活動に取り組みます。 2 連結財務諸表の意義・目的・種類、企業集団の実態を分析する上での連結財務諸表の有用性について理解します。	
評価方法	(1) 財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけているか。 (2) 企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠にもとづいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を身につけているか。 (3) 会計責任を果たす力の向上を目指してみずから学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養えたか。							
評価の観点	観 点	趣 旨						
	1 知識・技能	財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけている。						
	2 思考・判断・表現	唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあつて、財務会計をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用し、企業会計に関する法規と基準および会計処理の方法の妥当性と実務に適用することにもなう課題を見いだすとともに、会計情報が社会に及ぼす影響を踏まえ、財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力および財務指標を組み合わせて企業の実態を総合的に分析する力が身につけている。						
3 主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指してみずから財務会計について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身につけている。							
評価基準	1 知識・技能	A実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけている。 B実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけることが概ねできている。 C 実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身につけることが不十分である。						
	2 思考・判断・表現	A財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が身につけている。 B財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力が概ね身につけている。 C財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠にもとづいて工夫してよりよく課題に対応する力を身につけることが不十分である。						
	3 主体的に学習に取り組む態度	A適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が身につけている。 B適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が概ね身につけている。 C適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任をもって取り組む態度が不十分である。						